建設経済常任委員会

令和4年6月20日（月曜日）

付議事件

《付託議案》

議案第 1号 令和4年度旭市一般会計補正予算の議決について

議案第 4号 旭市農村公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定
について

出席委員（6名）

委員長	菅谷道晴	副委員長	井田孝
委員	向後悦世	委員	飯嶋正利
委員	林晴道	委員	遠藤保明

欠席委員（なし）

委員外出席者（3名）

議長	木内欽市	議員	伊場哲也
議員	常世田正樹		

説明のため出席した者（10名）

副市長	飯島茂	商工観光課長	大八木利武
農水産課長	池田勝紀	建設課長	浪川正彦
都市整備課長	飯島和則	上下水道課長	多田一徳
農業委員会 事務局 その他担当 職員	戸葉正和 3名		

事務局職員出席者

事務局長	穴澤昭和	事務局次長	金谷健二
------	------	-------	------

副 主 幹 菅 晃

開会 午前10時 0分

○委員長（菅谷道晴） おはようございます。

本日は大変お忙しい中、ご苦勞さまでございます。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

着座にて失礼いたします。

なお、会議に入る前に携帯電話等ございましたら、電源をお切りになるか、マナーモードに変えていただきたいと思います。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

本日、伊場哲也議員、常世田議員より、本委員会の傍聴をしたい旨の申出がありましたので、よろしく願いいたします。

本日、木内議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いいたします。

○議長（木内欽市） おはようございます。

委員の皆さん、また執行部幹部の皆様、大変ご苦勞さまでです。

本日は、付託いたしました2議案について審査をしていただくことになっております。当然、この委員会の採決を参考にして本会議に臨むわけでございます。どうか慎重なるご審議をお願いいたします。

それでは、菅谷委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（菅谷道晴） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、飯島副市長よりご挨拶をお願いいたします。

飯島副市長。

○副市長（飯島 茂） それでは、改めましておはようございます。

本日は建設経済常任委員会の開催、大変ご苦勞さまでございます。

着座にて失礼をさせていただきます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、全部で2議案でございます。

内訳でございますが、予算関係が1議案で、議案第1号、令和4年度旭市一般会計補正予算の議決について、そして次に、条例関係が1議案で、議案第4号、旭市農村公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からの質疑に対し、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ可決くださいますようお願い申し上げます。

また、本日は人事異動後初めての委員会でございますので、担当課長の紹介をさせていただきたいと思いますが、委員長、よろしいでしょうか。

○委員長（菅谷道晴） はい、よろしく申し上げます。

○副市長（飯島 茂） ありがとうございます。

それでは、順次自己紹介をさせますので、よろしく願いをいたします。

○商工観光課長（大八木利武） 商工観光課長の大八木利武と申します。よろしく願いいたします。

○農水産課長（池田勝紀） 農水産課長の池田勝紀と申します。よろしく申し上げます。

○建設課長（浪川正彦） 建設課長の浪川正彦です。よろしく申し上げます。

○都市整備課長（飯島和則） 都市整備課長の飯島和則と申します。よろしく申し上げます。

○上下水道課長（多田一徳） 上下水道課長の多田一徳と申します。よろしく願いいたします。

○農業委員会事務局長（戸葉正和） 農業委員会事務局長の戸葉と申します。よろしく申し上げます。

○副市長（飯島 茂） 委員長、以上でございます。

○委員長（菅谷道晴） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（菅谷道晴） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る6月13日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、令和4年度旭市一般会計補正予算の議決について、議案第4号、旭市農村公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についての2議案であります。

それでは、議案第1号について、補足説明がありましたらお願いします。

説明、質疑については着座で結構でございます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） では、着座にて失礼させていただきます。

議案第1号、令和4年度旭市一般会計補正予算の議決についての補足説明を申し上げます。
補正予算書の8ページをお開きください。

7款1項2目、説明欄1の商業活性化推進事業費1,000万円の増は、空き店舗活用事業補助金の増でありまして、市内の空き店舗を活用して事業を行う者に対し、空き店舗の改修費用や賃借料を補助するもので、当初予算において、新規分として改修費及び賃借料補助をそれぞれ4件分、また、通算24か月を限度とする賃借料補助のうち、前年度からの継続分として3件分、合計で782万8,000円を計上しておりましたが、本年度に入り補助金利用希望者が大幅に増加したことから、これらの要望をカバーするため、補正をお願いするものでございます。

次に、歳入をご説明いたします。

補正予算書の7ページをお願いいたします。

18款2項4目、説明欄1のふるさと応援基金繰入金1,000万円の増は、ふるさと応援基金繰入金を今回の補正事業である商業活性化推進事業費（空き店舗活用事業補助金）の財源として計上するものでございます。

以上で、議案第1号、商工観光課所管の補足説明を終わります。よろしくお願いたします。

○委員長（菅谷道晴） ありがとうございます。

担当課の説明は終わりました。

議案第1号について質疑がありましたらお願いいたします。

井田委員。

○委員（井田 孝） 議案質疑のときに、補正ということで改修7件、賃借7件という説明を受けたんですが、これは両方同じ、7件とも改修した方が賃借するという事でよろしいでしょうか。

○委員長（菅谷道晴） 井田委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） お答え申し上げます。

今回の補助金は、賃借料と、あと改修費を双方採択することができますので、7件につきましては同じ方でございます。また、賃借料のみの方もお2人いらっしゃいますので、賃借料のほうは9件ということになります。

以上でございます。よろしくお願いたします。

○委員長（菅谷道晴） 井田委員。

○委員（井田 孝） 分かる範囲で構わないんですが、7件がこれはどういう職種だったのかを参考のため教えていただきたいと思います。

○委員長（菅谷道晴） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 今回、当初予算分も含めまして、全部で13件分を今措置してございますが、飲食店が6件、スポーツ系の教室、フィットネスとかそういったものが3件、あとは1件ずつなんですけど、整体院であるとか美容室、あとはアパレル販売等々でございます。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） ほかに質疑はありませんか。

林委員。

○委員（林 晴道） それでは伺います。

まず、歳入のほうです。これはふるさと応援基金からの繰入れということになっていますが、これまで同じような商工振興費で充当させた実績があるようであれば、それらをちょっと全部教えていただきたいなど、そのように思います。

それから、続けますが、歳出のほうで大幅増による、利用希望者が増加したということでの新たな補正ということですが、質疑でも同僚議員から話がありました。当初予算からこんなに近くで、しかもそれよりも多い金額を補正として盛る。見込み違いじゃないのかという話でしたね。僕も当初そう思っていたんですが、回答を聞いていますと、いささか仕方ないなどそのように感じました。

しかしながら、なぜ大幅に増加したのか。それは受付をやっていると思うので、主な要因を聞きたいなど、そのように思います。

取りあえず以上で。

○委員長（菅谷道晴） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） お答え申し上げます。

まず歳入でございますが、ふるさと応援基金で充当しているものにつきましては、この空き店舗活用事業補助金のみでございました。

あと歳出のほう、大幅に増えた事由でございますが、議案質疑のときと同じご答弁になってしまうかもしれませんが、やはり商工会さんのほうにお話を伺った際に、ようやくこの補助金の趣旨というものが浸透してきたのではないかと、ところが一つにあるのかなと思っ

ております。

あとは、この補助金が当初は中心商店街の活性化というところで、商店街の中の空き店舗のみが対象であったものを全市に広げていくという形に、使いやすいように要綱を改正いたしました。

また、当初は、先ほど井田委員のご質問ございましたが、改修費と賃借料、どちらか一方の補助であったものを両方採択できるように制度改正をしたというところで、ハードルを下げて使いやすくしたところ、あとは、すみません、そういったところだと思います。

あとは、コロナが徐々に収束してくる中で、やはり商売のほうを今までちゅうちょしていた方が動き出そうといったタイミングがちょうどここに合ってきたのかなと。これはでも推測でしかないんですが、そういったところも考えております。

あと、これも推測なんですけれども、新規に創業したいという方がこれだけ多いということは、旭市の商圈といったところにポテンシャルが大きいものがあるのかなと、これもちょっと過大に解釈したところもあるんですが、そういった面も考えております。

それと委員、申し訳ございません。先ほど歳入の面、空き店舗の補助金のみというふうに申し上げてしまったんですが、大変失礼いたしました。プレミアム付商品券について、令和2年度にこの基金のほうから充当いたしております。

以上でございます。

○委員長（菅谷道晴） 林委員。

○委員（林 晴道） 歳入のほう、この事業とプレミアム付商品券ということなんです、これはふるさと納税の寄附であろうと思うんですけれども、やはり使い方の中で選んでもらったり、そういうことがあるからこういう基金があるんだと思いますけれども、鳥が先か卵が先かじゃないんですけれども、そういうふうに努力をして、寄附返礼品があつて寄附をしてきている方が大半だと思うんですよ、現状。

だから、しっかりと返礼品を取り組んでいる市内の事業所に対しても、ある程度配慮するとか、そういうところにも予算立てをできないものかなとか、そういう部分も検討に値するんじゃないのかなと思いますので、ここに貢献してくれた市内の商業施設に対してもある程度の事業を展開できるような、そういうような考えを持っていただけないものを聞きたいと思います。

それから、歳出のほうであります、この事業、新規でなくて何年か続いている事業だと思うんですけれども、そうであれば具体的な事業効果をどのように把握しているのか、その

点を教えてください。

○委員長（菅谷道晴） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） お答え申し上げます。

まず、市内のいろいろなふるさと応援寄附に貢献している事業者さんに対しての配慮とい
いますか、そういったところなんですけれども、ふるさと応援寄附につきましては、商工観
光課とすれば、その商業の活性化であるとか観光振興とかそういうところで貢献される面も
多大にございますので、そういった方々への配慮というものも考えてまいりたいと思ってお
ります。

それと委員、大変申し訳ありません。何度も訂正して申し訳ございませんが、ふるさと応
援基金の充当でございます。私、令和2年度のプレミアム付商品券と申し上げました。2年
度と3年度両方でございました。大変失礼いたしました。訂正のほう、させていただきます。

あと事業効果でございますが、今のところこの補助金でございますが、補助金を受けたら
最低でも3年間はこの事業を継続していくというところで要件としております。今現在のと
ころ、補助金を受けた企業さん、事業者につきましては、令和元年度から3年度分につつま
しては我々のほう、追跡といいますか店舗のほうを見て確認のほうをしてございます。全て
順調に経営をしているというふうになっております。

○委員長（菅谷道晴） 副市長。

○副市長（飯島 茂） 私のほうからも、ちょっと補足をさせていただきます。

ただいま林議員、事業効果ということでありました。それはふるさと応援寄附についての
事業効果というふうに捉えてもよろしいのでしょうか。

（発言する人あり）

○副市長（飯島 茂） そうですか。じゃ、先ほど答弁したとおりでございます。

○商工観光課長（大八木利武） じゃ、すみません。以上でございます。

事業効果とすれば、今のところ順調に営業のほうを続けているというところで、商業の振
興には貢献しているというふうに判断しております。

以上でございます。

○委員長（菅谷道晴） 林委員。

○委員（林 晴道） 事業効果があるといい事業で、産業振興に非常に貢献しているというこ
とでありますので、今後も続けていかねばならないし、このスピーディーな補正ですか。い
いことなんだろうなと思いますので、それではこの事業、これまで市内の採択した件数です

か。できたら旧4市町別の実績があれば、その地域ごとに教えてもらいたいなど、そのように思うんですよ。

それからまた、これは非常に早くて素晴らしいことですよね。ほかの事業と結構違いが大きいと思うんですよ。例えば何かコロナの直前、本市では人気だと言われたリフォーム補助金とか、あれももう1日、始まったらすぐもう終わっちゃったと、そういった話を市民からよく聞きました。

それは、市民の暮らしに直結するような大変人気のあるものだったなというふうに思うんですが、これは補正しなかったんですよね。しかも予算も増やしていない。これはちょっと何だかやっぱり商工会が入るととんでもない、旭市は動くのが早いなど、そのように思うんですけれども、その違い、後ろに都市整備課長、後ろに担当課がいらっしゃるから、その辺の何か違いを明確に教えてもらいたいし、リフォーム補助金だってやっぱり期待して1年間待って苦勞している市民の方が実際ちょっと近所にいるもので、言っておかなきゃならんなと思って、違いをよく教えてください。

○委員長（菅谷道晴） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） それでは、今までの過去におけるというところで、地域別のところなんですけど、令和元年度から過去3年分につきましては、全部で6件でございました。6件のうち、5件が旭地域、残りの1件が飯岡地域でございました。

その前でございますが、やはりこのときは、まだ要件がちょっとハードルが高いところもございましたが、全て旭地域というところでございました。

以上でございます。

○委員長（菅谷道晴） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、空き店舗の事業とリフォーム補助事業の違いというか、すみ分けについてまずお答えいたします。

住宅リフォームについては、対象として居宅、住居に処するものに対する補助金でございます。商工観光課のほうは営業用ということですみ分けができるのかなと考えております。

それとこの事業は、市の事業ではございますが、社会資本整備総合交付金を受けておりまして、国の補助が45%入っております。旭市でご要望いただいでいぶ件数も多いんですが、県内でも、市町村でも結構やっているところがございます。

本年なんですけど、政務報告でもありましたように、事前申込みとして127件いただいております。予算について今回補正はしなかったということでもございましたが、当初予算比較で

は、本年度、昨年度に比べ500万円ほど多く予算をいただいております。現在、事前申込みの段階では127件で、申込額としては1,996万4,000円でございます。予算額が2,500万円ございますので、予算額には若干余裕があるというところでございます。

令和2年、3年と結構申込みが多かったことはございますが、今年度に限っては予算内の申込みであった状況でございます。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） 林委員。

○委員（林 晴道） リフォーム補助金と今対照にしましたけれども、財源内訳が違うからそのスピーディーさとか大盤振る舞いの加減が違うんだよというふうに聞こえましたけれども、ぜひいい事業であればしっかりと捉えてもらえなきゃならないなと思います。

やはり旭市の地域特性からしたら、旧旭市、それから飯岡町、これが多いのはいささか仕方ないけれども、やっぱり観光物産協会にも言えますけれども、もうちょっと干潟とか海上地域にも目を向けてもらって、こちらの担当課のほうからこういうのがありますよとかPRをしっかりと公平、平等に行って、そういう予算も、もしこれが使えないんだったら違う方法で旧2町に充当することもできると思うんですね。

ぜひ、何か商工観光事業となると海上、干潟、特に海上はもうちょっと何とかしてもらいたいんだよという声が、要望が多いもので比べさせてもらいましたけれども、均衡ある発展、一生懸命やってくれているのは分かりますけれども、もうちょっとアナウンスの部分も窓口も含めてお願いしたいなと思いますので、いかがでしょうか。

○委員長（菅谷道晴） 副市長。

○副市長（飯島 茂） 私のほうから回答させていただきます。

ご提案非常にありがとうございます。前向きに対応させていただきます。市内、旧旭、海上、飯岡、干潟、均衡ある発展というのが旭市の目指す姿でございます。しっかり対応させていただきます。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（菅谷道晴） 特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第4号について補足説明がありましたらお願いします。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 議案第4号につきましては、本会議において補足説明したとおりでございます。追加での補足説明はございませんので、よろしくお願いいたします。

○委員長（菅谷道晴） 担当課の説明は終わりました。

議案第4号について質疑がありましたらお願いいたします。

飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） この農村公園、市内に今どのくらいの数があるのか。また、旭には都市公園、児童公園だとか種類が幾つもあると思う。分かる範囲でどのくらいの数があつて、この農村公園は地元の管理ということになっておりますが、ほかの公園は誰が管理しているのちよっとお聞かせいただきたい。

あと農村公園、月2万円ぐらいの管理費です。どのくらい整備されているところがあるのか、その辺も分かる範囲で。

○委員長（菅谷道晴） 飯嶋委員の質疑に対して答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） それでは、お答えします。

今市内で農村公園と呼ばれて農水産課が管理する公園なんですが、今6件あります。今回、条例に載せてある松沢農村公園、それから鐮木農村公園、そのほかに条例ではないんですが、東足洗農村公園、西足洗農村広場、それから仁玉アメニティ公園、あとは海上にあります清滝ため池公園、今この6件がございます。

それぞれ管理をお願いしていますのは、ほぼほぼ地元区にある程度の管理費を委託しまして、松沢農村公園も地元区、鐮木農村公園も地元区、東足洗、西足洗も地元区のほうに管理委託しています。仁玉アメニティ公園につきましては特に区には委託していませんで、これは自前で農水産課のほうで管理している。

清滝のため池公園なんですが、ここは多面的機能という交付金を地元で使っていて、そういった中である程度の管理をしていただいているという、そういう状況です。

○委員長（菅谷道晴） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、ほかの公園ということですので、都市整備課所管の公園としましては、都市公園といたしまして12か所ございます。1個1個、文化の杜公園もそうなんですが、袋公園、スポーツの森、その他、委員の近くである日の出山公園とか、そういった都市公園が12か所、それと、それ以外の公園として11か所ございます。

例えば海上のコミュニティ運動公園であるとか、三川ふれあい公園、長熊のスポーツ公園、

パークゴルフ場も含めて11か所ございます。都市整備課では12と11で23か所の公園です。こちらは、管理としては市が全部行っております。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） 飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） やっぱり公園は低予算で、かなり地元としても管理するのが大変なんですよ。足洗のやつもたしか一時、返そうかなという話があったくらいで、これは今都市整備課なんかでは都市公園以外のものも管理していると。これは都市整備課が何でほかの公園を管理しなくちゃいけないのかという理由ももちろん分からないですし、それであれば公園がある程度、うちのほうの公園、やっぱり月に4回、婦人部のほうで草刈り、草取りをやってもらっている。そういったものも考えて、ある程度市で管理というのは考えられないですか。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 今申し上げた農村公園の関係なんですけれども、地元区のご協力をいただいて、本当にボランティアという形の中でしか予算のほうに通ってなくて大変申し訳ないところでございます。

さっき、ほぼ地元区でお願いしている中で、仁玉アメニティ公園、これは市のほうで管理しているという、これは草刈り、剪定につきましては業者に委託とかしているんですけれども、そういった部分でもうちょっと措置がというところのご質問なんですかね。

○委員（飯嶋正利） そういうわけでもないけれども、例えば都市整備課、都市公園以外の公園は全てボランティアじゃなく市のほうで面倒を見ていると。何かつじつまが合わないような私は気がするんです、こっちはボランティアでやる、その線引きが。

○委員長（菅谷道晴） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） 今ご指摘の公園全てではございませんが、土地改良事業に伴って造った公園が農村公園という位置づけになっております。その中で管理は、管理区分を決めてございますが、地元ということになっておりまして、それが長く続いているのかなと思います。

その他の公園につきましては、いろんないきさつがあって今旭市が管理している状況でございますが、農村公園に関しては、土地改良事業の位置づけで地元となっているので、現在もそのまま管理となっているということでご理解いただければと思います。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） 飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） その辺のところをあまり言っても仕方がないんですが、それであれば年間の管理費みたいなのを、これは本当に区のほうもいろんな業者を入れたり、いろんな形で出費はしている区もあると思うんですよ。その辺のところをもう少し予算措置をしてあげられないのかなというふうに思うんですが、いかがですか。

○委員長（菅谷道晴） 副市長。

○副市長（飯島 茂） 私のほうから回答させていただきます。

地元でしっかり管理していただいていることに、まず感謝を申し上げさせていただきたいと思います。そして世の中がいろいろ変わってくる中で、ただいま飯嶋委員のご発言であれば、地元のほうが相当大変だよといったような発言で、ご意見でございました。

ここで明確に全て補助金といいますか、そういった管理費のほうをあげますということは申し上げることはできませんが、いろいろと各地区では、農地、水、いろいろ事業がございまして、地元のほうで国のほうの補助金をもらってしっかり管理しているような、ある意味公園も含んで広域の管理もしている地域もございしますので、そこら辺をトータル的に検討のほうをさせていただきたいなと思っております。よろしく願いをいたします。

○委員長（菅谷道晴） 飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） たしか保全のほうでは、公園のほうはなかなか管理費のほうが出せなかったんじゃないかなとか何とかいうふうに、ちょっとちらっとそんな感じもするんです。

それで本当に地元でせっかくある公園なので、地元としてもきれいに使ってもらおうということでそういうふうに今やっているもので、ただ、こういったボランティアで皆さんやってもらっているものがいつまで続くのかなということも、世代が変わってきた中で、ちょっと今、自分の区でもそういったものが、下の女性陣が何で私たちだけというふうなことも出てきている。それはどこでも同じだと思うんですよ。

そういうところも含めて、追い追いにちょっと考えていただけるとありがたいなということで、副市長よろしく願いいたします。

○委員長（菅谷道晴） ほかに質疑はありませんか。

向後委員。

○委員（向後悦世） ちょっと1点だけお尋ねしますが、いいおかみなと公園は県の所有物で、旭市が維持管理、また軽微な補修というように伺っておりますが、その辺がちょっと曖昧なんだか、何かいろいろ話を聞いてみますと、これは県だろうとか言ってなかなか市がやらないとか、また、県とどのような交渉をしているのか。これから夏場の夏季観光が盛んな時期

になってくるのでちょっとお尋ねしておきたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） みなと公園につきましては、一般質問でもありましたけれども、基本的には所有が県になっております。漁港事務所のほうで管理をしているところで、そこができてから、旧飯岡町時代から協定を結んでおります。その管理の県と市のほうの立てつけの協定を結んでいます。

基本的には、通常の維持管理の部分は市のほうで、草刈りだとか除草だとかトイレトペーパーの補充だとか、その辺の軽微な部分については市のほうで負担しますよという中で、今まで補修、修繕につきましては、協定の中でははっきりした金額は特にうたわれてはいないです。今まではだいたい担当同士で5万円くらいがいい線なのか、その辺で、それ以下であれば市のほうで少し修繕費を持っていますので、そこで手作業で直せる部分についてはやっていたんですが、大きな修繕につきましては県のほうにお願いしてやっていただいているという、そういった状況になっています。

○委員長（菅谷道晴） 向後委員。

○委員（向後悦世） 何か以前ですが、みなと公園についている表にある時計が壊れて、何か時計がずっと修繕できないままのような話を伺って、その後今どうしたかはまだ自分も確認しておりませんが、時計程度というとなれば5万円もあればできるんだか、ピンからキリまであるんだか、今その辺はどう整備しているのかしていないのか、ちょっとお尋ねします。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 今、みなと公園をご覧になると遊具のほうはかなり老朽化してしまっていて、壊れている部分があるということで、これは県のほうに4月にお願いしに行って、何とかというところをお願いしてきました。

実はそのほかにも電気系統だとか、あずまやの屋根だとか、ウッドデッキの部分だとか、点検するとかかなりちょっと傷んでいるところはあるんです。その辺も含めながら4月に漁港事務所のほうといろいろお話しさせていただいて、向こうのほうも予算がというところで、遊具のほうはかなりお子さんたちが使っているようなので、そちらのほうから何とかということも考えてくれているようですが、ちょっとまだその辺が県の予算もあって、1回に全部直るかというところちょっと順番になってしまうのかなという、そういう状況になっています。

すみません。時計を確認してなくて申し訳ないけれども、多分電気系統の関係でそれが、

ちょっと確認しまして市のほうの……

(発言する人あり)

○農水産課長（池田勝紀） すみません。みなと公園に時計はないみたいなんですけれども…
…

(発言する人あり)

○農水産課長（池田勝紀） 津波のときにあれなんですか。ちょっと確認不足で申し訳ないです。

○委員長（菅谷道晴） 向後委員。

○委員（向後悦世） じゃ、県のほうとよく協議して、またそういう県と何かお見合い状態にならないように、これは旭市だろうとか、これは県だろうとかと長々工事ができないでいたりなんかすることがないように、上手に交渉していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） ほかに質疑はありませんか。

遠藤委員。

○委員（遠藤保明） じゃ、農村公園の件で、松沢農村公園、これを新規に農村公園として設置するということでしょうか。

(発言する人あり)

○委員（遠藤保明） 今までもあった。それを農村公園……、じゃ、この件は、保全とか何か関係ありますか、環境保全の関係で耕地整理とか。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） この干潟地区の2つの鐮木公園と松沢のほうは、ほかの農村公園はだいたい基盤整備絡みで整備していたものですが、この2件につきましては、それと関係なく設置された公園です。

○委員（遠藤保明） 今までも松沢農村公園という名称でありましたか、これは。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 今、農村公園で、先ほど6つあるということですがけれども、条例において整備しているのが松沢農村公園と鐮木農村公園、この2件になります。

今回の条例の一部改正は、このうちの鐮木農村公園、こちらが区のほうと協議が済みまして、そこは廃止という形で地代のほう、お寺さんのほうから土地を借りてそこを整備してい

たんですけれども、お寺さんと区のほうで今回廃止ということで協議が調いましたので、それで今回、鎗木農村公園につきましては廃止ということで条例から除くということで、条例にあるのは今度、松沢1つだけということになると思います。

○委員（遠藤保明） 鎗木農村公園に関しては、前年度かな。その前にちょっと現地に行ったとき、こういう公園の体をしていないなという、もう使っている様子がなかったもので、これは分かります。それと地主もありますので、私、松沢の農村公園に関しては行ったことがないので、そのためにちょっと聞きました。一応委員会としてもこれから視察に行く予定ですので、よく確かめていきたいと思います。ありがとうございます。

○委員長（菅谷道晴） ほかに質疑はありませんか。

林委員。

○委員（林 晴道） 当施設、老朽化により公園機能が低下したとのこと。であれば老朽化する前、全盛期と比べて何が違うのかをちょっと明確に教えてもらいたいですね。器具がちょっと減らしたよとか何かそういうことだと思うんですが、その辺を具体的に教えてください。

それから、利用者の減少ということも説明でありますけれども、どの程度把握されているのかなど。なかなか僕も奥まったところで見えない中で、地権者なんかと話したんでしょう。どの程度利用者が減っているのかをちょっと明確に教えてもらいたい。

それから、地権者、地権者と、地権者はいるのかなど思っているんです。そのお寺さん1か所なのかどうなのかと、地元区との協議をしているということなので、その内容と協議した回数を教えてください。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 公園機能といいますか、あその鎗木農村公園のほうは、当初整備したときはコンビネーション遊具、4連ブランコ、2連式シーソー、リングブランコ、3連中铁棒、あとベンチ、トイレ、物置、水飲み、くず入れ、小さいものですけれども、あとはあずまやですか。そういったものがかなり整備を当初はされていたようですが、今現状で残っているのがあずまやと、あと水道の部分だけになってしまっているという状況です。

それから利用者は減少しているということで、この辺はずっと市のほうで人数を把握していたわけではないんですが、地元区といろいろ協議していく中で、もうかなり昔、ゲートボールとかが盛んなときはかなり使っていたという状況があったような話もしていますけれども、近年では、もう本当にその隣のすぐ近くに住んでいる人のお孫さんがたまに行く程度で、

ほとんど区の行事もそこではやられていないのかなという状況です。

地権者につきましては、一応あの公園、約2反歩ぐらい面積がある。そのうちのほとんどが妙経寺さん、そちらの敷地をお借りしてやっている状況です。

区との協議回数なんですけど、この話が始まって、令和2年5月上旬から計5回ほど区長と、区と協議をしているという経緯でございます。

以上です。

○委員長（菅谷道晴） 林委員。

○委員（林 晴道） うちの近所にも都市整備課管轄の公園がありまして、昨日もグラウンドゴルフをやってきましたよ。老朽化したんじゃないで、これは老朽化させたんですよね、残念ながら。笑っていますけれども、修復の状況を教えてくださいよ。何で全盛期から減らしちゃったのか。修復すればよかったじゃないですか、ほかのところはしてくれているんだから。修復の状況を教えてください。

利用者の把握もそれだとちょっと弱いので、設置年月日からの推移がどれほど減ったのか、全盛期から比べて、それもちょっと聞いてみたいなと思いますね。

あと、利用者が多少なりともいらっしゃるのであれば、今利用していただいている方への考えも教えてもらいたいと、そのように思います。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 老朽化という部分で、修繕のほうが目立っているんじゃないかというところだと思うんですが、近年、修繕という部分では行っていないのが申し訳ないですけども現状でございます。

利用者の推移なんですけれども、こちらでは本当に申し訳ないんですが、市としてはちょっと把握はできていない状況でございます。

現在の利用者の対応というか、区のほうとも3月でこの公園を廃止するということがあったので、1月ぐらいですか。区のほうで、西8区、あと7区も少し利用している人がいたのかどうかです。その辺に区のほうで回覧を作っていただいて、廃止の旨をアナウンスしていただいたという状況です。

○委員長（菅谷道晴） 林委員。

○委員（林 晴道） 事前にその状況を写真等で見せてもらって確認しましたよ。何度もそちらで言うように老朽化していますよ。これ、補修もしないで手入れもしてくれない。だから老朽化しますし、だから利用率が下がると思いますよ。しっかりと管理して充実した整備を

行ってさえいけば、利用者がそんなに減ることないんじゃないのかなと僕はそう思いたいですね。

親の実家でもあるので、そっちも盛り上げていきたいなと思っているんですよ。しっかりその辺のところを捉えてもらって、古いから壊すと、廃止すると。それじゃ簡単なんですよ。ぜひこういうような現状になる前に、しっかりと再整備だとか、しっかりしているものが、新しいものができたら利用者は増えると思いますよ。その辺のところもちょっと頭に入れてもらえたらありがたいなと、そう思って質問したわけでありまして。

最後に、それが言いたかったんですけども、その後の利用方法ですか。そこは朽ち果てて、木が覆いかぶさって終わっちゃうんじゃないかとちょっと悲しいので、どのような利用方法を考えているのか、そういう協議ができているのか、その辺を聞きたいと思います。

○委員長（菅谷道晴） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 底地につきましては、妙経寺さんの土地なもので、一応3月いっぱいまでそちらに返還というか、続いての更新は行わないということでなっています。その跡地なんですけれども、区のほうでかなり植木を結構自前で植えてくれた部分、その辺につきましては区のほうで全部元通りというか剪定していただいて、それは処理する方向になっています。

老朽化老朽化って私のほうも説明しちゃったんですけども、そもそもの公園としての機能の陳腐化といいますか、そういった部分もありまして、今、先ほど飯嶋委員もあつたんですけども、区のほうで草刈りとかというのかなり重労働になって、ちょっと管理も難しいということで、ちょっといろいろそういった中でのお話し合いで今回の協議に至ったという部分もあります。

一応今その場所ですけれども、あずまやと、あと水道施設が残っているんですけども、その辺は解体、撤去してお返しするという形で協議を進めているところです。

○委員長（菅谷道晴） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（菅谷道晴） 特にないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（菅谷道晴） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第1号、令和4年度旭市一般会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（菅谷道晴） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案どおり可決されました。

議案第4号、旭市農村公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（菅谷道晴） 全員賛成。

よって、議案第4号は原案どおり可決されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（菅谷道晴） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

以上で本日の日程は終了いたしました。

○委員長（菅谷道晴） これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午前10時50分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 菅 谷 道 晴